

# 森こそ都市の価値高める

## 虎視

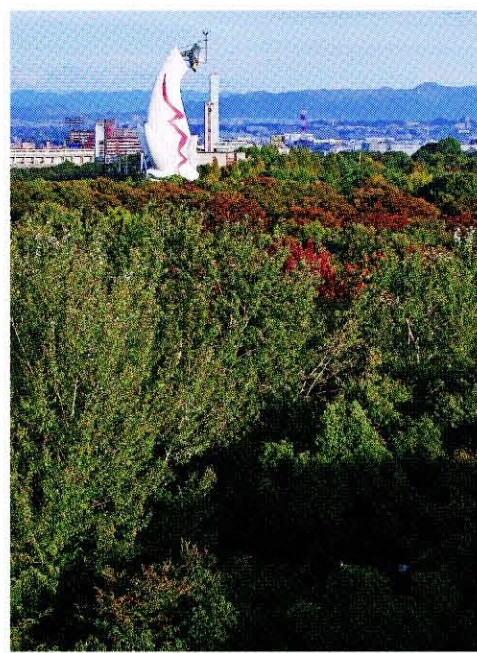


たかむら・かおる 昭和28年、大阪生まれ。国際基督教大学卒業。『レイ・ジョーカ』で毎日出版商社勤務を経て、平成2年、『黄金を抱いて飛べ』が日本推理サスペンス大賞を受賞しデビュー。5年に『マークスの山』で直木賞、10年に『レイ・ジョーカ』で毎日出版文化賞を受賞。他の作品に『新リア王』、『太陽を喰う馬』、『冷血』など。

### 高村薫が聞く

樹木が植えられた公園は驚異的なスピードで生物多様性を回復させて、いまはほぼ自立した森になっているのだ。

公害と自然破壊が当たり前の時代、緑や水を扱う造園家はなにかと時代に抗うことを余儀なくされ、自ずと文明的な視野に行き着くこともあったのではないかと、氏の場合はそのようだ。都市と自然は対立するものなのか、共存しうるものなのか。一方で環境を破壊し、他方で自然再生を叫ぶ現代



大阪万博から40年が過ぎた万博記念公園。一帯はさまざまな動植物が生息する「自立した森」に成長した—大阪府吹田市

### ランドスケープデザイナー 吉村元男さん(76)



よしむら・もとお ランドスケープデザイナー。環境事業計画研究所会長。昭和12年、京都市生まれ。京都大学農学部林学科(造園学)卒業。昭和54年に万博記念公園の設計で日本造園学会賞を、平成5年に新梅田シティの設計で大阪府都市景観最優秀賞などを受賞。著書に『ランドスケープデザイン』(鹿島出版会)、『森が都市を変える』(学芸出版社)など。

### 人間が自然を装置化

都市への《野生》の導入は、人間の側がこのように主体的に自然をシステム化、装置化することを意味するのだが、そうして装置化された自然を氏は「中自然」と呼ぶ。そこでは樹木を刈り込んだりしない。都市にあることも可能な限り自然に成長させることで、都市に《野生》の尺度と時間が生まれるというわけだ。

### 大阪人の「不経済観」

なるほど、都市に森をつくるのが経済原理との闘いなら、大阪人は樹木に土地を占領させるのを頭から不経済とみなしているのかも。現に、JR大阪駅周辺に残された梅田北ヤード18分の再開発計画では、すでに商業施設もオフィスも完全に飽和状態のところに、さらに高層ビルを建てるといって、人口減少時代にこれほど経済的に合わない話もない。

### 文化

◇おとこわり 「関西街角文化論」は休みます。

作家、高村薫さんが、異分野のスペシャリストとの対談を通じて感じ取ったものをつづる連載です。随時掲載します。

CULTURE

撮影・甘利誠